短期大学部の教育目的、ポリシーおよび学習成果

教育目的

■人間総合学科

人間総合学科の教育上の目的は、人生に目的（志）を持ち、それを実現するに十分な表現能力や豊かな感性とライフサイクルに対応して地域社会に貢献できる知識や技術（多様な資格と検定）を身につけた人材を養成することにある。（新潟青陵大学短期大学部学則第 3 条第 2 項）

■幼児教育学科

幼児教育学科の教育上の目的は、幼児教育分野における実践的教育を通して、万物に対する深い愛と広い視野、豊かな感性をもって保育を創造することができる専門家を養成することにある。（新潟青陵大学短期大学部学則第 3 条第 3 項）

短期大学部がめざす人物像（ディプロマ・ポリシー）

■人間総合学科

1.建学の精神である「実学教育」に基づいた人材育成を経て、就業後に活かせる実践力を身につけている。

2.選択した履修分野の基礎から専門に渡る知識、技能、資格を身につけている。

3.多様な分野での活躍と生涯教育を可能とする向上心、知的応用力、協調性がある。

4.地域に根差した社会人として活躍できるマナー、社会常識、ビジネス基礎知識・技能といった就業力を身につけている。

■幼児教育学科

1.広い視野をもち、保育者としての専門的知識と技能、問題解決能力を有している。

2.社会の要求をとらえた創造性豊かな保育を構想し、主体的に実践できる。

3.人権尊重の精神と万物を慈しむ心をもち、他者と協働して保育を行うことができる。

短期大学部の学びの基本方針（カリキュラム・ポリシー）

■人間総合学科

1.あらゆるビジネスのベースとなる知識と技能の修得を目指し、マナー、文書作成能力、コミュニケーション能力などを養成する科目を設定する。

2.専門科目を履修分野ごとに体系的に履修できるよう構成し、基礎的科目から専門的な科目、実践的な科目へと展開するとともに、能動的学修の充実を図る。

3.初年次教育において、専門分野を学ぶための基礎的な学習方法を身につけ、社会生活を豊かなものとするための文化、芸術など幅広い教養を身につける。

4.地域貢献を目指したボランティア活動に関する科目、地域や企業についての理解を深めるための講義・実習科目を履修し、実践力を身につける。

■幼児教育学科

1.初年次教育において、基礎的な学習方法を身につけ、各専門分野においてより専門的な科目、実践的な科目へと展開するとともに、能動的学修の充実を図る。

2.豊かな感性と創造性を育み、共感する心とそれを表現する力を養うことにより、保育者としての実践力が発揮できるようにする。

3.様々な保育の現場に対応するために、人権尊重の保育と基本的な礼節を重視し、演習や実習指導に取り組む。

短期大学部が求める人物像（アドミッション・ポリシー）

■人間総合学科

1.明確な目的意識をもち、本学科における学修のための基礎学力を有する人。

2.ビジネス、会計実務、ファッション、インテリア、フード、観光、ブライダル、英語などのいずれかの分野に興味関心をもち、積極的に学ぼうとする人。

3.多様性を尊重し、協調性を重んじ、人と人とのコミュニケーションを大切にする人。

4.地域社会に貢献できる知識・技能を身につけたいという意思をもつ人。

■幼児教育学科

1.保育をめざす高い志と、本学での就学に必要な基礎学力および、基礎技能をもつ人。

2.積極的に学ぶ意欲と臨機応変に課題に取り組める人。

3.明朗で協調性があり、対人関係を円滑に築くことができる人。

短期大学部における学習成果

■新潟青陵大学短期大学部

1.教養と倫理観をもって行動できる。

2.専門知識を理解し説明できる。

3.専門技能を実践で活用できる。

4.課題を発見し解決できる。

5.情報を収集・分析し表現できる。

6.協働して役割を果たせる。

7.主体的に挑戦し継続できる。

8.地域社会で活躍できる力をもつ。

■人間総合学科

1.幅広い教養と倫理観をもって行動できる。

2.選択分野の基礎から専門に至る知識を理解し説明できる。

3.専門技能および資格を実践で活用できる。

4.課題を発見し、知的応用力をもって解決できる。

5.情報を収集・分析し、適切に表現できる。

6.他者と協働し、ケアのこころをもって役割を果たせる。

7.自ら目標を設定し、主体的に挑戦し継続できる。

8.地域社会で活躍できる就業力を発揮できる。

■幼児教育学科

1.保育に関する専門的知識および技能を身につけ、説明したり実践したりできる。

2.子どもの発達や保育場面で生じる課題について、理論に基づいて分析し、考察できる。

3.子どもの発達に応じた保育を構想し、実習等において主体的に基本的な保育を実践できる。

4.保育実践を振り返り、自らの課題を見出すことができる。

5.人権を尊重する姿勢をもち、子どもや周囲に配慮した関わりができる。

6.保育における地域や関係機関との連携の意義を理解し、実習等において協働の一員として行動できる。